

「教育共同体」の一員として 「人間形成の場」で 輝きを放つ存在に

獨協大学学長 山路 朝彦



山路 朝彦(やまじ・あさひこ)

1953年生まれ。81年東京外国語大学大学院修士課程外国語学
研究科ゲルマン系言語専攻ドイツ語修了。86年獨協大学外国語
学部専任講師、90年外国語学部助教授、01年外国語学部教授。
本学における役職歴は、94～96年外国語学部教務主任、97～01
年学長室委員、03～07年学生部長兼敬和館長、08～12年教務
部長、12年～19年副学長兼総合企画部長および獨協学園理事。
20年4月1日より学長に就任。

獨協大学は、この4月1日に入学式を
開催し、2170名の学部生と3名の
大学院生を迎えました。入学式で話した
ことのうち2点を、改めて全学生の皆さ
んに伝えたいと思います。

入学式の学長式辞では、まず、「大学は
学問を通じての人間形成の場である」と
いう建学の理念を紹介し、その理念に創
設者である天野貞祐先生が込められた
意味を説明しました。ここでは、天野先
生の第一回入学式学長式辞の中から、そ
のお考えが最も簡潔に述べられている部
分を引用いたします。

「人間教育ということが言われており
ますけれども、私どもの考えている人間
教育というのは、もっぱら学問を通じて、
もちろん他の活動を否定するものでは
ございませんけれども、総じて学問を通
じて、勉学によって人間を形成しようと
いうのであります。そうしてよき意思を
養い、豊かな情操を蓄え、知識を磨き、ま
た健やかな健康を持った人格を育成し
ていこうという考えであります。」(傍線
部分は加筆しました)

ここに、人間形成をまさに学問を通じ
て行おうという、獨協大学を作られた目
的が明確に述べられています。また、獨協
大学で育ってほしい人間像を、善良な意
思をもって考え、行動し、豊かな感性をも
ち、磨き上げられた知識を備え、かつ、健
康な人物と定義しています。このような

人物を目指して勉学に励んでもらうとい
う考えは、獨協大学の60年近い歴史の中
で一度も揺らいだことはありません。

入学式ではもう一つのことをお話し
しました。それは、「入学式に参加するこ
とで『獨協大学という教育共同体』の一
員となったことを意識してください」と
いうことです。ここで言う「教育共同体」
というのも天野先生のお考えです。要約
するならば次のようになるでしょう。

「へしばば学生は大学を、そこに通う
もの」といった、自分の「外にあるもの」と
考えがちである。しかし、自分が作った獨
協大学はそうではない。学生と大学は
別々にあるのではなく、一体である。獨
協大生がいるから獨協大学はあり、獨協
大学があるから皆は獨協大生となる。獨
協大生が成長すれば、大学も発展する。
皆さんは獨協大学という「一つの生きた
生命体」の中にあり、その構成員である。
獨協大学という一つの「共同体」の一員
なのです。」

今年の入学式では、獨協大学を構成す
るのも創り上げるのも皆さんであるこ
と、皆さんが光り輝くことで大学も輝
き、大学が輝くことで皆さんも輝くのだ
ということを天野先生のお考えを紹介
しながら述べました。どうか、皆さんがこ
れから獨協大学で過ごす年月を大切に
し、自らを磨き、輝きを増す、成長の時と
してほしいとの願いを込めました。